

#5

2021年 文系

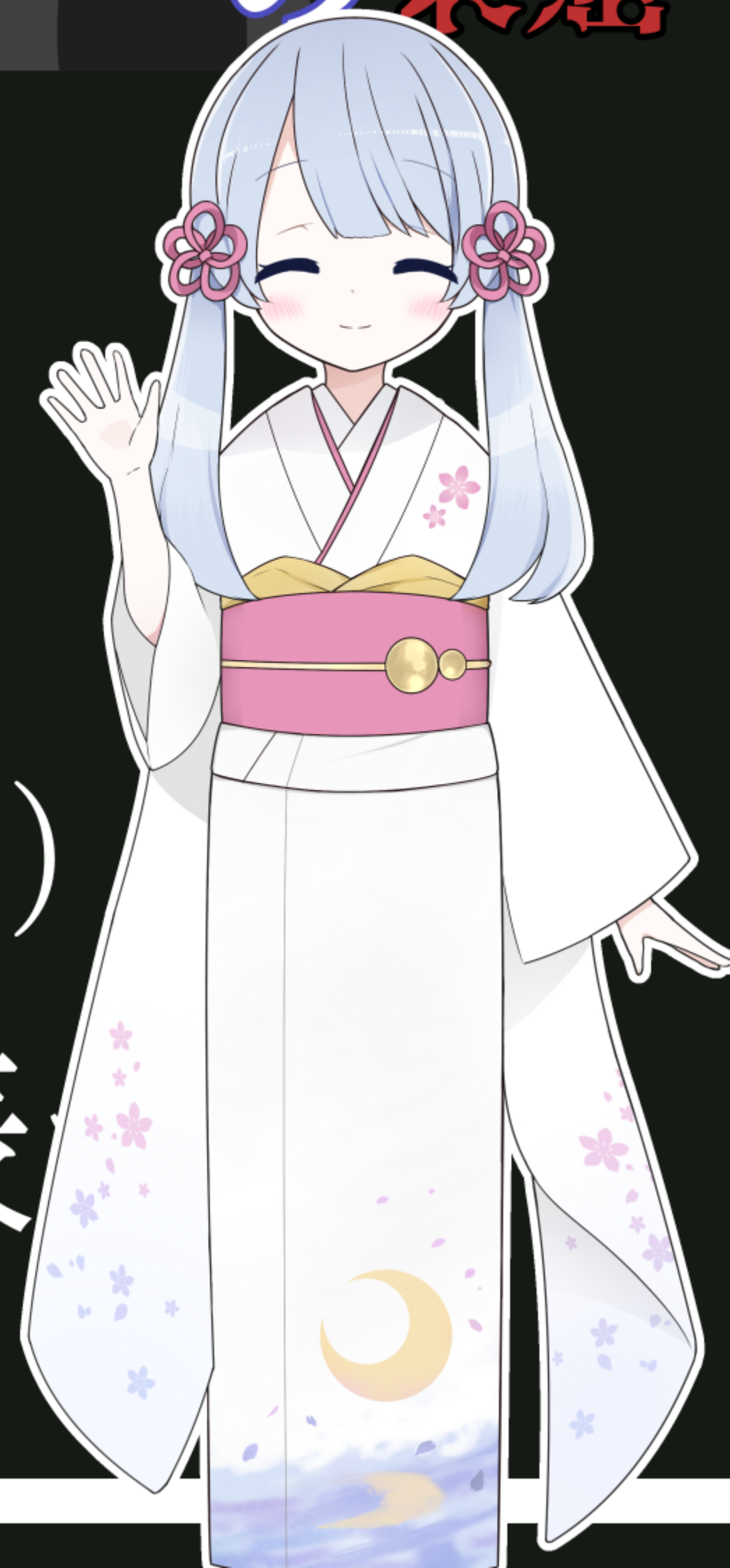
# 京都大学

入試問題  
の巣窟

$6.75_{(10)}$  を2進法で表せ。

また、この数と  $101.0101_{(2)}$

積を2進法および4進法で表



(1)  $6.75_{(10)}$  を2進法で表せ。

(2)  $6.75_{(10)} \times 101.0101_{(2)}$  を2進及び4進表記せよ。

### 説明

2以上の整数 $n$ に対して、 $_{(n)}$ を $n$ 進表記の印とする。

例)

$71_{(8)}$  : 8進数の71

$57_{(10)}$  : 10進数の57

$$71_{(8)} = 57_{(10)}$$

数 $A$ が $n$ 進法で  $a_m \dots a_1 a_0 . a_{-1} \dots$  ( $n^i$  の位が $a_i$ ) と書かれるとき、 $A$ は次のように表せる。

$$A = \sum_{i=-\infty}^m a_i n^i$$

例)

$$0.3333 \dots_{(10)} = \frac{1}{3}_{(10)} = 0.1_{(3)}$$

$$1.125_{(10)} = 1.1_{(8)} = 1.1111 \dots_{(9)}$$

少なくとも $m$ が有限の値であれば $A$ は収束する。

$$\sum_{i=-\infty}^m a_i n^i < \sum_{i=-\infty}^m n^{i+1} = \frac{n^{m+1}}{1 - n^{-1}}$$

(1)  $6.75_{(10)}$  を2進法で表せ。

(2)  $6.75_{(10)} \times 101.0101_{(2)}$  を2進及び4進表記せよ。

### 解答

以下、進法が明らかでないものは全て10進数であるとする。

(1)

$$\begin{aligned} 6.75_{(10)} &= \frac{27}{4} \\ &= \frac{2^4 + 2^3 + 2^1 + 2^0}{2^2} \\ &= 2^2 + 2^1 + 2^{-1} + 2^{-2} \\ &= 110.11_{(2)} \end{aligned}$$

(2)

$$\begin{aligned} &6.75_{(10)} \times 101.0101_{(2)} \\ &= 110.11_{(2)} \times 101.0101_{(2)} \\ &= (110.11 \times 101.0101)_{(2)} \\ &= (11111.111 + 11.111111)_{(2)} \\ &= (100000 - 0.001 + 100 - 0.000001)_{(2)} \\ &= (100100 - 0.001001)_{(2)} \\ &= 100011.110111_{(2)} \\ &= 203.313_{(4)} \end{aligned}$$



## 補足I (n進法の加算と乗算)

$n$ 進法の四則演算は10進法のものと全く同じ手続きで行われる。

1桁同士の結果があれば、2以上の桁においてはそれぞれの位に対して計算を繰り返し替えることで結果を得ることができる。

整数  $d_A, d_B$  と2以上の整数  $n$  が存在し、任意の実数  $A, B$  に対して整数列  $\{a_i\}, \{b_i\}$  が次のように定められる。

$$0 \leq a_i < n, \quad 0 \leq b_i < n$$

$$A = \sum_{i=-\infty}^{d_A} a_i n^i, \quad B = \sum_{i=-\infty}^{d_B} b_i n^i$$

このとき、 $A$ と $B$ に対して次の関係が成り立つ。

$$\begin{aligned} A \pm B &= \sum_{i=-\infty}^{d_A} a_i n^i \pm \sum_{i=-\infty}^{d_B} b_i n^i \\ &= \sum_{i=-\infty}^{\max(d_A, d_B)} (a_i \pm b_i) n^i \quad (\text{複号同順}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} AB &= \left( \sum_{i=-\infty}^{d_A} a_i n^i \right) \left( \sum_{i=-\infty}^{d_B} b_i n^i \right) \\ &= \sum_{i=-\infty}^{d_A} \sum_{j=-\infty}^{d_B} a_i b_j n^{i+j} \end{aligned}$$

それぞれの位で計算を繰り返していることが表されている。

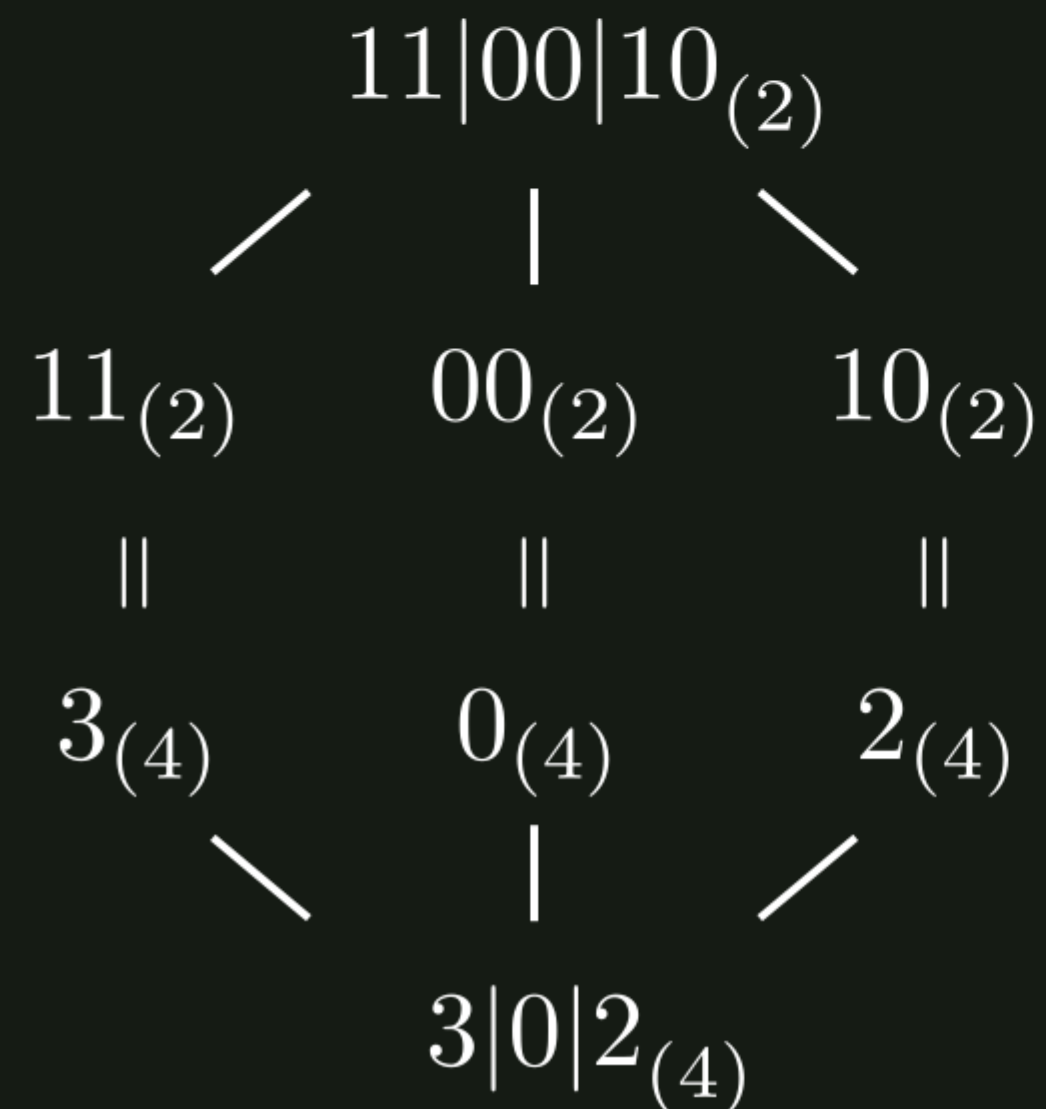
## 補足2 (n進法から $n^m$ 進法への変換) (0)

$n$ 進表記から $n^m$ 進表記への変換には比較的容易な手順が存在する。

1.  $n$ 進表記を $m$ 桁ごとに区切る。
2. 各まとまりを $n^m$ 進表記に書き換える。

例)

$$110010_{(2)} \rightarrow 302_{(4)}$$



$l$ を整数とすると、 $n$ 進表記の $lm$ 乗の位から $(l+1)m-1$ 乗の位までの並びの $n^m$ 進表記が $n^m$ 進表記の $l$ 乗の位の値に一致する。

2進数と16進数の例が有名。

2進数を4桁ごとに区切り、それぞれのまとまりを16進表記に書き換えると全体の変換も完了する。

例)

$$\begin{aligned} & 1111011111110010111110_{(2)} \\ & \rightarrow 0011|1101|1111|1100|1011|1110_{(2)} \\ & \rightarrow 3|D|F|C|B|E_{(16)} \\ & \rightarrow 3DFCBE_{(16)} \end{aligned}$$

$$1111011111110010111110_{(2)} = 4062398_{(10)}$$

$$3DFCBE_{(16)} = 4062398_{(10)}$$



## 補足2 (n進法からn<sup>m</sup>進法への変換) (I)

証明

$$n, m \in \mathbb{N}, n \geq 2, m \geq 1, l, d \in \mathbb{Z}$$

$$a_i, k_i \in \mathbb{Z}, 0 \leq a_i < n, 0 \leq k_i < n^m \text{ (for all } i)$$

$$A = \sum_{i=-\infty}^d a_i n^i = \sum_{i=-\infty}^{dm^{-1}} k_i (n^m)^i$$

このとき、次の関係が成り立つ。

$$k_l = \lfloor A n^{-lm} \rfloor - n^m \lfloor A n^{-(l+1)m} \rfloor$$

$$\lfloor A n^{-lm} \rfloor - n^m \lfloor A n^{-(l+1)m} \rfloor$$

$$= \sum_{i=l}^{dm^{-1}} k_i n^{(i-l)m} - n^m \sum_{i=l+1}^{dm^{-1}} k_i n^{(i-l-1)m}$$

$$= k_l$$

$$\lfloor A n^{-lm} \rfloor - n^m \lfloor A n^{-(l+1)m} \rfloor$$

$$= \sum_{i=lm}^d a_i n^{i-lm} - n^m \sum_{i=(l+1)m}^d a_i n^{i-(l+1)m}$$

$$= \sum_{i=lm}^{(l+1)m-1} a_i n^{i-lm}$$

$$\therefore k_l = \sum_{i=lm}^{(l+1)m-1} a_i n^{i-lm}$$